

箸蔵小学校
「学力向上実行プラン」

研究テーマ

- ①自主的・主体的な学習の設定や、指導のあり方について研究し、「確かな学力」を身につけさせる。
- ②ペア・グループ・クラスでの話し合いを取り入れ、自己表現力を育てる。

学力向上検討委員会構成

--	--

校長



(1)基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 朝のドリルや授業など、学習規律を守って真面目に取り組む児童が多い。漢字や計算力の定着については、概ね満足できる状況である。全校で読解力ドリルに取り組み、様々な読み物への抵抗が少なくなってきた。	①学習規律を身につけ、主体的に学習に取り組むことで、基礎的・基本的な知識・技能を習得する。 ②分かったことや思ったこと、事実や意見など、目的に合わせて文章を読み書きすることができる。	①各教科の単元末テストで、80点以上を獲得できる。 ②「書くことができる」と答えた児童の割合80%以上。			
課題 課題解決に時間のかかる児童や、一斉指導では十分に定着がはかれない児童がおり、学力の二極化が見られる。長文や算数の文章題など、読解力を必要とする問題が苦手な児童がいる。	具体的方策(教員の取組) ①漢字・計算問題に継続して取り組んだり、個に応じた課題を与えたりすることで、知識・技能の定着を図る。 ②文の構成の仕方や用紙の使い方などの指導を続け、「書く力」の基礎・基本の向上を図る。	取組指標 ①ドリルやプリントなど、個や習熟度に応じた課題を工夫して与える。 ②日記や作文を添削し、整った文章を月1つは書かせるようにする。		評価	次年度における改善事項

(2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 「書くこと」に、全校で重点的に取り組んだことで、抵抗感が減り、ほとんどの児童が意欲的に書けるようになってきた。ホワイトボードやノートに自分の考えをまとめたり書いたりすることができつつある。	①接続語や話形を身につけ、自分の考えや思考過程を分かりやすく表現することができる。 ②ホワイトボードやICTを活用して、自分の考えを表現したり、分かりやすく説明したりすることができる。	①「説明・発表することができる」と答えた児童の割合70%以上。 ②全員が、自分の考えを文章や図、式などを用いて表現することができる。			
課題 自分の考えや思考過程を口頭で説明したり発表したりすることが苦手で、消極的になる児童が多い。目的や意図に応じて必要な情報を読み取り、取捨選択してまとめることが苦手な児童が多い。	具体的方策(教員の取組) ①ペア・グループ・クラスでの話し合い場面を設け、自分の考えを伝え合い、深められるような学習を仕組む。 ②考えを書かせたノートやホワイトボードを用いて説明させたり、ICTを活用してまとめたりする学習を取り入れる。	取組指標 ①ペア・グループ・クラスでの話し合い場面をできるだけ多く設定する。 ②ホワイトボードやICTを説明や発表に活用した学年の割合100%。		評価	次年度における改善事項

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 家庭学習や課題への取り組みは良好で、提出率はほぼ100%である。読書習慣が身につく、目標冊数や必読書の読破を達成できる児童が半数程度いる。	①「学年×10分」の家庭学習に取り組む習慣や、主体的に学習に取り組む態度を身につける。 ②朝の読書や家庭読書に意欲的に取り組み、幅広い読み物を進んで読むことができる。	①「学年×10分」の家庭学習時間を達成できた児童の割合80%以上。 ②目標読書冊数(低:200冊/中:100冊/高:50冊)の達成率100%			
課題 学年が上がるにつれて、「学年×10分」の家庭学習の目標時間を達成することができていない。読書への取り組みが二極化しており、読書に主体的に取り組めていない児童が見られる。	具体的方策(教員の取組) ①学年に応じて量や内容を工夫した課題を与える。家庭学習時間の調査を定期的に行い、達成率を図る。 ②家庭読書週間の充実のために、記録用紙を家庭に持ち帰らせる。目標読書冊数を設定し、啓発する。	取組指標 ①家庭学習時間の調査を学期に1回は行い、実態把握と改善に努める。 ②読書冊数や読書時間の記録用紙を定期的にチェックし児童への啓発を行う。		評価	次年度における改善事項

平成31(令和元)年度 学力向上ロードマップ

